

平成 23 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 23 年 6 月 17 日（金） 11 時～12 時

場 所：NS スカイカンファレンス ルーム 1・2（学術集会第 2 会場）

報告者：理 事 長 太田喜久子

理 事 石垣 和子 大塚真理子 北川 公子 酒井 郁子 正木 治恵
水野 敏子 山本 則子 湯浅美千代

監 事 金川 克子

記 録：丸山 優（会員） 吉田 妙（事務センター）

1. 開会の辞

湯浅理事より、会員数 1,223 名のうち委任状 503 通、出席者 58 名であり、会則 19 条に則り総会として成立している旨が報告され開催が宣言された。また、太田理事長より開会の辞が述べられた。

2. 議長選出

議長選出にあたっては、慣例により中島紀恵子第 16 回学術集会長が選出された。

3. 報告事項

1) 理事会、評議員会報告（総一資料 1）

太田理事長より、総一資料 1 に基づき、平成 23 年度の主な活動内容として以下の 6 項目についての報告がなされた。また、昨年度総会以降、平成 22 年度第 5 回理事会、平成 23 年度第 1～2 回理事会、第 1 回評議員会を実施した旨が報告された。

(1) 主な活動内容

① 編集事務委託の開始

編集事務を株式会社ワールドプランニングに委託することを承認し、契約を取り交わした。なお、事務作業については第 16 巻 1 号査読分より行っている。

② 老年学会活動の推進

平成 22 年度、日本老年医学会との共同研究「認知症末期患者に対する人工的な栄養・水分補給法の導入・差し控え・中止に関するガイドライン作成へ向けた検討」にワーキングメンバーとして参加し、会員の協力を基に調査を行い、その結果を 2 月 27 日に開催されたシンポジウムで発表した。今年度も継続した研究を行うため、助成金の申請をしている。

また、老年医学会からの要請を受け、「健康長寿診療ハンドブック」作成に協力している。

③ 第 17 回、18 回学術集会の準備

2012 年 7 月に開催する第 17 回学術集会にむけ、石垣和子氏（石川県立看護大学）を学術集会長として準備を進めている。また、第 18 回学術集会は日本老年学会（第 28 回日本老年学会総会）との合同開催となり、小西美智子氏（岐阜県立看護大学）を学術集会長として準備を行う。

④ 老年看護に携わる看護職の卒後研修

学会として取り組むため老年看護研修委員会の設置を検討中である。

⑤ 日本看護系学会協議会との連携の推進

老年看護分野における高度看護実践内容を検討し協議会に提出するとともに特定看護師（仮称）の動きに関わる協議会提言を承認し、学会としての意見を提出した。

⑥ 東日本大震災への災害支援

役員および老人看護専門看護師より被災状況や支援ニーズについて情報を収集し、日本看護系学会協議会との連携をとりながら今後の支援活動のあり方を検討中である。

2) 総務報告（総一資料 1）

大塚理事より、現在会員数が 1,223 名である旨、また、入会基準検討のための情報収集を進めている旨が報告された。

3) 委員会報告（総一資料 2）

(1) 編集委員会

北川委員長より以下の 5 項目について報告がなされた。

① 第 15 巻 2 号の発行について

第 15 巻 2 号に投稿された 19 編の論文の審議・検討を行った結果、最終的な論文掲載数は研究ノート 2 編、資料 4 編の計 6 編である。このほか、第 15 回学術集会から学術集会長講演、教育講演、シンポジウムの 3 つの企画を特集として掲載し、6 月初旬に発行予定である。

② 第 16 巻 1 号の進捗状況について

第 16 巻 1 号への投稿（平成 23 年 5 月 2 日締切）は計 22 編であった。また、今号より新投稿規程の適用となったが、ほとんど問題はなかった。

③ 平成 22～24 年度の査読者について

現在、74 名の方々を査読者として依頼しているが、査読希望論文の増加等に対応するため、新たに 5 名の方々が査読者として推薦され、現在手続き中である。なお、査読者の研究課題や研究方法を登録願うため、現在、登録用紙を見直し中であり、本年度上半期中に実施予定である。

④ 編集事務の委託とそれに伴う投稿規程の変更

昨年度の総会で報告した編集事務委託の契約が整い、平成 23 年 5 月 7 日の理事会において正式に承認された。委託先は本学会の事務運営を担う株式会社ワールドプランニングであり、これまで編集委員長のもとにあった事務機能のすべてを、「日本老年看護学会編集委員会」としてワールドプランニングにおくこととした。また、委託に伴い、本誌発行を医学書院から同社に移し、体裁も B5 版から A4 版に変更することとした。今後の投稿論文の送付先は「日本老年看護学会編集委員会」宛となり、それに伴い投稿規程の「原稿の送付先」を下記に変更した。

送付先：〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2 階

(株)ワールドプランニング内 日本老年看護学会編集委員会

⑤ 投稿について

投稿原稿を随時受け付けているが、年 2 回の刊行スケジュールの関係から、第 16 巻 2 号は平成 23 年 9 月 30 日（金）、第 17 巻 1 号は平成 24 年 4 月末（予定）を投稿締切日とした。

(2) 研究・教育活動推進委員会

山本委員長より、今年度は、研究論文の執筆に役立つセミナーを計画しているが、節電のため夏季は

実施せず、10月16日（日）東京医科歯科大学での実施を予定しており、詳細が決定次第学会 HP 等において周知する旨が報告された。

(3) 老年看護政策検討委員会

泉委員より、① 昨年度より特定看護師（仮称）についての本学会としての意見をとりまとめ、4月に日本看護系学会協議会に提出した旨、② 今年度は、昨年度までに報告書にまとめた厚労省からの委託研究結果を HP に公開していく予定であり、さらに、老年看護にかかわる政策について、国と都道府県、看護協会、学界の動き、情報を統合し、総説等にまとめ、提言していく予定である旨、③ 拡大メンバーとして堀内副理事長、金川監事にもご協力をいただいている旨が報告された。

(4) 国際交流委員会

正木委員長より、昨年度報告書にまとめた厚生労働省補助金による「海外の高齢者施設における看護職等のケア管理・提供に関する調査研究」の成果をさらに検討すべく、第16回学術集会において交流集会を企画した旨、および HP 上での国際学会や視察報告を継続している旨が報告された。また、本年度の活動方針・計画として以下の4項目について説明がなされた。

- ① これまでに作成したコンテンツを盛り込み、広報委員会と共同して本学会の英語版 HP を立ちあげる。
- ② 老年看護学会英語版リーフレットを作成する。
- ③ 韓国の老年看護学会との連携を進める（学術集会への参加、視察の実施など）。
- ④ アジア諸国（フィリピン、インドネシア、台湾、タイ、中国、香港等）の老年看護学会との連携を図るとともに、2012年の学術集会にて交流集会（英語による発表・討議）の企画ならびに老年看護に関する国際交流活動を推進する。

(5) 研究論文表彰選考委員会

酒井委員長より、第4回研究論文表彰の選考について、学術集会開催時期変更に伴い、第13巻、14巻、15巻1号掲載論文を選考対象として審議した結果、下記論文（優秀賞1編、奨励賞2編）が選出された旨が報告された。

・優秀賞

「地域在住高齢者を対象とした Home Hazard Modification Program の効果」(14巻2号, 42-49)
亀井智子, 梶井文子, 糸井和佳, 小坂井留美, 新野直明

・奨励賞

「急性期治療を受ける内科高齢患者の入院3日間におけるせん妄発症のリスク要因」(14巻2号, 50-59)

長谷川真澄

「不同意メッセージへの気づき：介護職員とのかかわりの中で出現する認知症の行動・心理症状の回避に向けたケア」(15巻1号, 5-12)

伊東美緒, 宮本真巳, 高橋龍太郎

4. 協議事項

1) 平成22年度決算報告（総一資料3）

水野会計担当理事より、総一資料3を基に以下のとおり説明がなされた。

- ① 収入の部については、会費収入：11,220,000 円（正会員 1,162 名中 1,086 名）、学会誌等販売費：29,390 円、利子・雑収入：6,578,942 円（第 15 回学術集会からの寄付金・ワークショップ参加費、DVD 頒布還付金等を含む）、前年度繰越金：9,131,959 円を含め、合計 27,960,291 円の収入があった。
- ② 支出の部については、機関誌購入費：7,183,050 円（14 巻 2 号、15 巻 1、2 号）、編集委員会費：1,065,412 円、研究・教育活動推進委員会：468,598 円、国際交流委員会：242,530 円、学会事務委託費：2,609,075 円、総務事務費：559,549 円、合計 15,002,968 円を支出し、次年度への繰越金を 12,957,323 円とした。
- ③ 学会積立金特別会計については、受取利子：8,038 円、前年度繰越金：5,023,707 円を含め、次年度への繰越金を 5,031,745 円とした。

2) 平成 22 年度決算監査報告（総一資料 3）

金川監事より、平成 23 年 6 月 4 日、小西監事とともに、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成 22 年度の決算書が適正かつ正式であった旨が報告された。

3) 平成 23 年度事業計画（案）（総一資料 4）

太田理事長より、資料 4 を基に下記 9 項目について説明がなされた。

- ① 第 16 回学術集会の開催
- ② 学会誌第 16 巻 1 号、2 号の発行と 15 巻 1 号と 2 号の電子化による公開
- ③ 国内外の研究・教育ならびに生涯学習事業の推進
- ④ 老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑤ 看護系諸学会との共同事業の推進（看護系学会協議会の東日本災害支援事業を含む）
- ⑥ 日本老年学会活動の推進
- ⑦ 表彰論文の選考
- ⑧ ホームページの充実
- ⑨ その他本学会の目的とする事業

4) 平成 23 年度予算（案）（総一資料 5）

水野会計担当理事より、総一資料 5 を基に以下のとおり説明がなされた。

- ① 収入の部については、会費収入：12,660,000 円、前年度繰越金：12,957,323 円を含め、合計 25,617,323 円の収入とした。
- ② 支出の部については、第 17 回学術集会貸付金 1,000,000 円、第 17 回学術集会助成金 300,000 円、第 18 回学術集会・老年合同学会助成金：1,300,000 円、学会誌作成費：3,000,000 円、研究論文表彰選考委員会：410,000 円、基本事務委託費：1,250,000 円、総務事務費：1,000,000 円、学会積立金特別会計への繰入：6,000,000 円、予備費：3,000,000 円を含め、合計 21,120,000 円を支出するものとした。
- ③ 学会積立金特別会計については、一般会計より 6,000,000 円（DVD 頒布収入：5,000,000 円、老年学会合同開催準備金：500,000 円、選挙用積立金：200,000 円、老年学会年会費増額見込み等）を繰入する。

5) 平成 24 年度事業計画基本方針（案）（総一資料 6）

太田理事長より、総一資料 6 を基に下記 10 項目について説明がなされた。

- ① 第 17 回学術集会の開催
- ② 学会誌第 17 巻 1 号, 2 号の発行と 16 巻 1 号と 2 号の電子化による公開
- ③ 国内外の研究・教育ならびに生涯学習事業の推進
- ④ 老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑤ 看護系諸学会との共同事業の推進 (看護系学会協議会の東日本災害支援事業を含む)
- ⑥ 日本老年学会活動の推進
- ⑦ 表彰論文の選考
- ⑧ ホームページの充実
- ⑨ 役員選挙の実施
- ⑩ その他本学会の目的とする事業

以上, 1) ~5) の協議事項に対し, 出席者の挙手による採決の結果, これを承認した.

5. 第 17 回学術集会／第 18 回学術集会について

1) 第 17 回学術集会について

石垣第 17 回学術集会長より, 下記内容について報告がなされた.

- ・開催日: 2012 年 7 月 14 日 (土) ~15 日 (日)
- ・会 場: 金沢歌劇座, 金沢 21 世紀美術館 (石川県金沢市)
- ・テーマ: 当事者学としての老年看護学の追究; 高齢期を生きる人との交流
- ・演題登録期間: 2012 年 1 月 20 日~2 月 29 日

2) 第 18 回学術集会について

小西第 18 回学術集会長の代理として湯浅理事より, 本学術集会は日本老年学会としての合同学会であり, 2013 年 6 月 4 日 (火) ~6 日 (木) に開催予定である旨が報告された.

6. 表 彰

酒井研究論文表彰選考委員長より, 第 4 回研究論文表彰の発表が行われ, 下記の受賞論文 3 題に対し賞状および楯が太田理事長より贈呈された.

優秀賞: 「地域在住高齢者を対象とした Home Hazard Modification Program の効果」

亀井智子, 梶井文子, 糸井和佳, 小坂井留美, 新野直明

奨励賞: 「急性期治療を受ける内科高齢患者の入院 3 日間におけるせん妄発症のリスク要因」

長谷川真澄

「不同意メッセージへの気づき: 介護職員とのかかわりの中で出現する認知症の行動・心理症状の回避に向けたケア」

伊東美緒, 宮本真巳, 高橋龍太郎

7. 閉会の辞

湯浅理事より, 閉会の辞が述べられ, 閉会となった.